

厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

（総括）研究報告書

病院における子ども支援プログラムに関する研究

主任研究者 山城雄一郎（順天堂大学医学部教授）

研究要旨

我が国における、子どもの発達段階に対応した遊び、保育、教育、診療にともなう精神的ケア、インフォームドコンセント、家族サポートの実態を、全国郵送調査した。併せて、病院における子ども支援プログラムについて多くの蓄積を有する病国の ACCH(Association for the care of children's Health)の第 34 回年次大会に参加し、情報収集を行った。その結果、我が国の小児医療施設に於いて、子ども支援プログラムのうち、家族参加への支援、インフォームドコンセントについては、比較的实施率は高かった。しかしプレイセラピー、児童生徒への教育は実施率が 30%代であった。病棟保育士の導入も少なかった。これらの支援体制を充実させるためには、社会の支援体制や医療における制度的な改革が必要である事が明らかになった。他方、米国では近年、患児だけでなく家族を中心にした支援プログラムが重視され、一人の人間が成長発達し、生活していく上でのトータルな病院環境の整備、改善が進められている事が把握できた。

我が班では、上記の点について、分担研究者の野村みどり、帆足英一、中川 薫が各々「米国における子ども支援プログラムに関する研究」「病棟内保育の現状と課題」「病院における子ども支援プログラムに関する研究」を行った。その研究結果の詳細は別紙に示す。